

「鹿児島県環境白書」刊行にあたって

本県は、南北600キロメートルに及ぶ広大な県土を有し、日本で初めて国立公園に指定された霧島や世界自然遺産に登録された屋久島、世界的にも貴重な動植物を有する奄美群島、毎年1万羽以上渡来する出水平野の特別天然記念物「ツル」など、他の地域にない優れた自然環境に恵まれています。このかけがえのない恵み豊かな自然環境を大切に保全し、活用しながら、次の世代に確実に継承することは、現代に生きる私たちの使命であります。

「環境」は、21世紀における人類の共通課題であり、今後様々な行政展開が集中的に求められると考えています。このため、県におきましては、県環境基本計画に基づき、「人と自然が調和する地球にやさしい社会づくり」を目指して、「地球を守る脱温暖化への貢献（低炭素社会づくり）」、「地球にやさしい循環型社会の形成（循環型社会づくり）」、「自然あふれる癒しのかごしまづくり（自然共生社会づくり）」の三つを基本目標として、各般の施策を総合的かつ計画的に推進しているところです。

地球温暖化は、その予想される影響の大きさや深刻さから考えて、人類の生存基盤にも関わる最も重要な環境問題であることから、県地球温暖化対策推進条例に基づき、地球環境を守るかごしま県民運動推進大会の開催や二酸化炭素排出量を森林整備による吸収量で埋め合わせるカーボンオフセットの仕組みの普及など、県民、事業者、行政が一体となった対策を推進しています。

また、循環型社会の形成に向けて、廃棄物の排出抑制や減量化、リサイクルの推進を図るとともに、平成23年7月着工の公共関与による産業廃棄物管理型最終処分場（エコパークかごしま（仮称））の整備を進めています。

本年3月に霧島屋久国立公園の再編により新たに「霧島錦江湾国立公園」と「屋久島国立公園」が誕生したことは、生物多様性豊かな本県の自然の価値が改めて高く評価されたものと考えています。こうした価値の普及啓発や奄美群島の世界自然遺産登録へ向けた取組を推進するなど、自然あふれる癒しのかごしまづくりを進めているところです。

このような取組を通じて、温暖化対策を進め、地球環境を守るとともに、ふろさと鹿児島のかげがえのない環境を守り育て、次世代に引き継いでまいりたいと考えています。

この白書は、平成23年度における鹿児島の環境の現状と施策の内容・成果を取りまとめたものであり、この白書が、県民の皆様の環境に対する認識や意識を高め、環境保全に向けた取組の参考になれば幸いです。

平成24年12月

鹿児島県知事 伊藤 祐一郎